令和７年度

河川名	地点	水素イオン濃度 PH			生物化学的酸素要求量 BOD			浮遊物質量 SS			溶存酸素量 DO		
		月	数値	年平均	月	数値	年平均	月	数値	年平均	月	数値	年平均
神田川	久保前橋（C類型）	5	8.2	8.4	5	1.0	1.0	5	3	5.5	5	9.7	12.0
		9	9.0		9	1.5		9	3		9	11.6	
		11	8.2		11	0.6		11	4		11	12.0	
		2	8.3		2	1.0		2	12		2	14.5	
	高戸橋（C類型）	5	7.5	7.5	5	1.1	1.3	5	1	1.3	5	9.4	9.1
		9	7.3		9	1.7		9	2		9	8.2	
		11	7.6		11	0.6		11	1		11	9.5	
		2	7.4		2	1.9		2	1		2	9.2	
妙正寺川	四村橋（B類型）	5	7.5	7.5	5	1.4	1.5	5	2	2.5	5	9.5	8.9
		9	7.4		9	1.9		9	4		9	10.4	
		11	7.7		11	0.8		11	2		11	8.8	
		2	7.4		2	1.9		2	2		2	6.9	

※計測値未満の数値については、計測の下限値を用いて平均値を計算しています。

【各項目の解説】

〇水素イオン濃度（PH）

水の酸性、アルカリ性を示す指標。0から14の間の数値で表現されています。PHの数値が7だと中性、7から小さくなるほど酸性が強く、
7から大きくなるとアルカリ性が強いことを表しています。【環境基準】 6．5～8．5

〇生物化学的酸素要求量（BOD）

微生物が水中の汚れ（有機物）を食べる（酸化分析）時に必要とされる酸素の量をもって表したものです。
値が大きくなるほど河川が汚れているということを表しています。【環境基準】 3mg／ℓ以下（B類型） 5mg／ℓ以下（C類型）

〇浮遊物質量（SS）

水中に浮遊している不溶性の物質。水の濁りの原因となる。光の透過を妨げ、河底に堆積すると河底の生物にも悪影響を及ぼします。
【環境基準】 50mg／ℓ 以下（B類型） 50mg／ℓ 以下（C類型）

〇溶存酸素量（DO）

水中に溶解している酸素の量です。1気圧のもとで20度の清水には約9mg/lの酸素が溶け込みます。気圧、水温などによっても数値は変動します。
また、日中、水中植物の光合成が行われるとDOは高くなります。【環境基準】 5mg／ℓ以上